

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

不登校児童生徒支援・特別支援教育推進事業

事業の経過・背景・課題

30日以上長期欠席児童生徒数は増加傾向にあり、教育活動全般を通じた支援に加え、専門機関や家庭等との連携支援が急務となっている。また、外国語を母国語とする児童生徒のサポート等特別な支援を必要とする児童生徒も増加傾向にあり、多様な児童生徒に対応する支援スタッフの配置が必要である。

取組内容

交付実績額： 3,123 千円

- ・不登校傾向にある児童生徒が個々の状況に応じて学習できる環境を確保するため、旧 P C 教室を活用した「校内フリースクール」を設置し、専門の支援員による学習や生活面のサポートを実施
- ・特別な支援を必要とする児童生徒や、外国語を母国語とする児童生徒の学習や生活をサポートするため、新たに支援員（多様な学びサポーター）を配置

▶ 校内フリースクール



事業の成果・今後の展望等

- ・学校内フリースクールを開設し、専門の支援員の配置により、不登校・不登校傾向の生徒が安心して過ごすことのできる居場所の確保、充実した学習支援体制が整い、生徒の利用につながった。
- ・多様な児童に対応する支援員の配置によって、一人一人の状況に応じた学習支援や生活支援を行うことができ、誰一人取り残さない教育の推進につながった。
- ・今後は引き続き、児童生徒の多様な学びを支援する環境整備を行うとともに、不登校傾向の児童生徒を持つ保護者への支援や、専門機関との連携など、総合的な不登校児童生徒対策を推進する。

問い合わせ先

宮津市教育委員会学校教育課（0772-45-1641）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

宮津の新たな学び創造事業

事業の経過・背景・課題

急激に変化する時代の中で、子どもたちが生き生きとした学びが展開できるよう、ICTを効果的に活用した「個別最適な学び」、また異なる考え方を組み合わせ、より良い学びを生み出す「協働的な学び」を一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が求められている。

こうした中、本市では1人1台タブレット端末の導入から丸3年が経過し、各学校とも一定の活用は図られているなかで、今後は、反転学習など授業そのものの改革に取り組むため、授業支援ツールの導入や授業改善に向けた更なる実践研究が必要となっている。

取組内容

交付実績額： 1,077 千円

I C T活用やコミュニケーション教育の導入による対話的で深い学びの実現

- 非認知能力の育成・向上を目指した演劇的手法の活用によるコミュニケーション教育の実施
- 授業改善に向けたICT活用の実践研究、授業支援ツール等の導入
- 旧PC教室を利用した学びの深化ラボ（ICT活用拠点）の設置



令和6年4月～：コミュニケーション教育の実施（宮津中学校・宮津小学校）

令和6年4月～：学びの深化プロジェクト（チームgarapagos）研修会等の実施

令和6年4月～：授業支援ツールロイロノート、スタイラスペンの活用、学びの深化ラボの活用と横展開

事業の成果・今後の展望等

- ・演劇的手法を活用したコミュニケーション教育をモデル的に実施することにより、児童生徒の非認知能力の育成を図り、他者との対話への関心・意欲の向上につながった。
- ・ロイロノート等の授業支援ツールの導入や整備したICT活用拠点の活用により、児童生徒が互いに意見を共有したり、協働で編集作業をするなど、対話的で深い学びを実現することができた。
- ・コミュニケーション教育の実施を学期毎に拡充し、教員の授業スキルを高めることにより他校への横展開につなげる。
- ・引き続きICTを活用した授業改善に向け、授業支援ツールの活用や実践研究に取り組む。

問い合わせ先

宮津市教育委員会学校教育課（0772-45-1641）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

少子化時代の豊かな学び推進事業

事業の経過・背景・課題

少子化の進行により学校の統廃合が進む中で、地域の歴史や文化を系統的に学ぶ「ふるさとみやづ学」を推進し、地域住民との連携による体験学習を充実させ、地域と共に学び成長する子どもを育成する。

取組内容

交付実績額： 685 千円

ふるさとの歴史や文化を学ぶ体験学習「ふるさとみやづ学」の推進

- 「ふるさとみやづ学」の推進
 - ・Kids学芸員養成塾の実施
 - ・デジタル副読本の制作、3小学校児童交流事業の実施

令和6年4月～：3小学校児童交流事業の実施

令和6年7月～：子ども学芸員養成講座「Kids学芸員養成塾」の実施

令和7年3月～：デジタル副読本のHP公開、改訂版作成



事業の成果・今後の展望等

- ・Kids学芸員養成塾では、資料の調査、北前船をテーマにした展示の企画・設営など学芸員の仕事や、本物の歴史資料に触れる体験を通じて、子ども達がふるさとの歴史や文化を学び、地域への愛着や誇りの形成する機会となった。
- ・デジタル副読本になることで、タブレット端末等の活用につながり、「ふるさとみやづ学」の更なる学びへの効果が期待できる。なお、デジタル副読本は市HP等でも公開し、子どもから大人まで広く活用し「ふるさとみやづ学」の推進を図る。
- ・連携学習に必要な機器の整備により、3小学校の児童同士の遠隔での交流やリモート学習の充実につながったため、引き続き小規模校の交流連携を進め、中学校への円滑な接続と集団での学習機会を確保する。

問い合わせ先

宮津市教育委員会学校教育課（0772-45-1641）